

八間川ってどんな川？

八間川は、倉敷市水島の中心部を流れる川。

明治時代まで、この場所には東高梁川が流れ、江戸時代にはこの川を境に備前と備中が分けられていたそうです。それが大正時代、高梁川の一本化により川ではなくなりました。

そして、その東高梁川があったところに水路が作られました。それが八間川です。当時はきれいで澄んだ水が流れていたそうです。しかし、その後、さまざまな経過をたどり、今では真ん中に壁のある不思議な姿になっています。



昭和30年頃の八間川



昭和30年頃の八間川



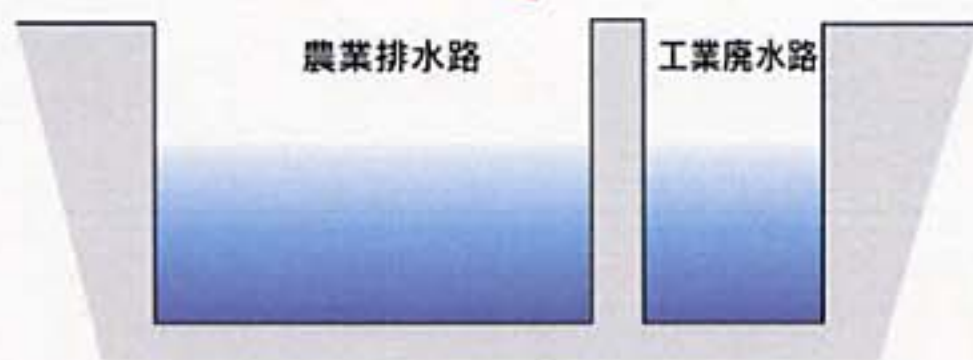
※写真提供：倉敷市史跡歴史資料整備室

現在の八間川



八間川断面

西



東



現在の八間川は「特別都市下水道」で、範囲は「八王子 287-1」から「川崎通 1-1-5」までとなっています。

倉敷市では、西側を雨水、東側を汚水としてますが、八間川調査隊では開始当時からそれぞれ「農業排水」、「工業廃水」としてきましてので、このパネルにおいてもそれに準拠することにしました。